

狭心症の新治療法

重症患者に対する新たな治療法が、厚労省の高度医療に承認されました。

重症の狭心症患者の心臓に、弱い衝撃波を体外から当てて血管が新たに作られるのを促し、心臓の筋肉(心筋)の血流を回復させるという東北大病院の新しい治療法なのか。



衝撃波治療装置を操作する伊藤健太・東北大准教授。心臓のエコー画像を見ながら手に持った部分を胸に当て、衝撃波を発射する。仙台市青葉区の東北大病院で

音とともに、指で軽くたたかれたような感触を手のひらに感じた。

「心臓に衝撃波を当てる」と聞くと、ぎょっとするが、使用する衝撃波は腎臓や尿管の結石破碎に使われる強度の10分の1。衝撃波には血管拡張作用もあるため、「胸が温かくなり、気持ちよくなって眠ってしまう患者も多い」と、この治療法を開発した下川宏明・東北大教授(循環器内科)は話す。

痛みや副作用もなし ■泡が発生しマッサージ効果

を当ててみますか」
仙台市青葉区の東北大病院。衝撃波を発生させる装置を操作していた伊藤健太准教授(循環器内科)が記者に声を掛けた。恐る恐る装置の下に手を差し出すと「パチッ、パチッ」という

狭心症は、動脈硬化などが原因で心臓を流れる血管が狭くなり、心筋に十分な血液(酸素)が流れなくなると胸の痛みや不快感を生じる病気だ。

して動脈硬化が増え、日本人でも心臓の広範囲で血液不足になり、カテーテル治療やバイパス手術では治し切れない患者が増えていく(下川教授)という。

10月初旬に同病院で衝撃波治療を受けた宮城県石巻市の男性(81)は3年前、心臓の表面を走る3本の冠動脈のうち1本にステントを入れたが再び症状が悪化し、最近では「急ぎ足で歩く程度でも胸が痛かった」といどいときには、狭心症の

要があるという。

1カ所につき衝撃波を200回当て、これを20×40カ所ですり返す。約3時間に及んだ治療後、男性は痛みはなく、風が当たっているような感じだった」と話した。男性はこの治療を1日おきに3回受けて退院した。

そもそも、下川教授が衝撃波治療に着目したのは01年。学会で「培養した内皮細胞に衝撃波を当てると一酸化炭素が発生した」とい

州大と東北大で動物実験や臨床試験を実施し、最適な衝撃波の強度や発射回数などを確立した。東北大での臨床試験は既存の治療で効果が不十分だった重症患者8人(61〜80歳)を対象とし、血液の心拍出量や歩行距離、ニトログリセリンの使用量などが改善することを確かめた。

7月に厚労省の高度医療に認められ、3回の衝撃波治療に伴う費用26万5500円は全額患者負担となるものの、それ以外の検査や入院費は保険が適用される。同病院では今後、50人の患者にこの治療を実施し、薬事法の承認や全額保険適用に向けた治療データの収集を進める。

下川教授は「人体の持つ自己修復力を生かした治療法と言える。全身麻酔や手術が必要なく、副作用も見られないため、高齢者や他の病気を併発している患者の生活の質を上げるのに貢献できる」と話している。

【西川拓、写真も】